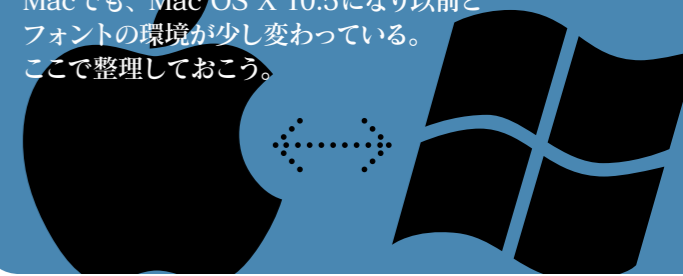


# Macとウィンドウズの フォント環境を 考える

Macとウィンドウズでデータを交換する時に注意したいのはお互いのフォント環境だ。Macでも、Mac OS X 10.5になり以前とフォントの環境が少し変わっている。ここで整理しておこう。



## Macとウィンドウズで使われているフォントについての基礎知識

Macやウィンドウズには、ゴシック体や明朝体といった書体ごとにファイリ化された「フォント」がインストールされている。フォントを追加インストールすると、使用できる書体を増やすことができ、特定のフォントファイルを削除すると、その書体が使えなくなってしまう。

Macやウィンドウズには、「トゥルータイプ」や「オープンタイプ」「CID」などの種類があって、種類が違っても同じフォルダに混在した状態でインストールされているのだ。まずは、この種類の違いを整理しておこう。

Macやウィンドウズでデータを交換する時に注意したいのはお互いのフォント環境だ。Macでも、Mac OS X 10.5になり以前とフォントの環境が少し変わっている。ここで整理しておこう。

## フォントに起因する文字化けの原因「Nフォント」

Macとウィンドウズ間で文書ファイルなどを交換すると、文字の意味不明の記号に置き換わってしまう「文字化け」が発生することがある。文字化けの原因は、OSやソフトが対応する文字コードの違いが大きな理由だ。そして、それとは別に、一部の文字だけが記号や他の漢字に置き換わってしまう文字化けもある。これがフォントの違いによって発生する文字化けで、ファイル作成者が使用したフォントが、受け取った側のフォントよりも多くの文字を持つていたり(文字セットの違い)、双方のフォントが同じ文字コード番号に対して別の文字を割り当てていた場合に発生する。前者の場合は、受け取った側には存在していない文字なので四角い記号(■、□など)に置き換わるケースが多く、後者は文字が置き換わるトラブルだ。これはビスタの発表後に問題となったが、Mac間でも注意が必要だ。

Macとウィンドウズ間で文書ファイルなどを交換すると、文字の意味不明の記号に置き換わってしまう「文字化け」が発生することがある。文字化けの原因は、OSやソフトが対応する文字コードの違いが大きな理由だ。そして、それとは別に、一部の文字だけが記号や他の漢字に置き換わってしまう文字化けもある。これがフォントの違いによって発生する文字化けで、ファイル作成者が使用したフォントが、受け取った側のフォントよりも多くの文字を持つていたり(文字セットの違い)、双方のフォントが同じ文字コード番号に対して別の文字を割り当てていた場合に発生する。前者の場合は、受け取った側には存在していない文字なので四角い記号(■、□など)に置き換わるケースが多く、後者は文字が置き換わるトラブルだ。これはビスタの発表後に問題となったが、Mac間でも注意が必要だ。

Macとウィンドウズ間で文書ファイルなどを交換すると、文字の意味不明の記号に置き換わってしまう「文字化け」が発生することがある。文字化けの原因は、OSやソフトが対応する文字コードの違いが大きな理由だ。そして、それとは別に、一部の文字だけが記号や他の漢字に置き換わってしまう文字化けもある。これがフォントの違いによって発生する文字化けで、ファイル作成者が使用したフォントが、受け取った側のフォントよりも多くの文字を持つていたり(文字セットの違い)、双方のフォントが同じ文字コード番号に対して別の文字を割り当てていた場合に発生する。前者の場合は、受け取った側には存在していない文字なので四角い記号(■、□など)に置き換わるケースが多く、後者は文字が置き換わるトラブルだ。これはビスタの発表後に問題となったが、Mac間でも注意が必要だ。

## Macでも発生する、MSフォントの字体置き換わりと解消方法

①「マイクロソフト・オフィス」に付属するMSゴシックを「フォントブック」で表示した場合。同じ「MSゴシック」というフォント名だが、オフィス2004がインストールされたMacでは略字で表示され(左)、オフィス2008がインストールされたMacでは正字で表示されているのがわかる(右)。

④旧字の字体に置き換わるMSフォントの対応表。Mac側は、オフィスのバージョンでJIS90対応とJIS2004対応のどちらかに決まってしまうため、ウィンドウズ側でフォントオプション(ビスタならVer2.5のJIS 90版文字セット、XPならVer5.0のJIS 2004版文字セット)をインストールすることで、字体の置き換わりを避けることができる。